

ひょうごの 赤十字



2017.8月
August

特集

全国赤十字救護班研修会



中播磨地区赤十字奉仕団が「いざという時のために」必要な知識と技術を学ぶ
おかえりなさい、三嶋看護師
看護学生が子どもたちと夏まつり
兵庫県日赤有功会のご支援に感謝
患者さまに初夏の贈りもの
講習のご案内





全国赤十字救護班研修会

～日赤救護班の初動活動の強化・レベルアップのために～

全国赤十字救護班研修会は、日本赤十字社の重要な使命の一つである災害救護のレベルアップを目的として、平成21年度から毎年4回開催しており、第1回目は例年兵庫県で7月に開催しています。今年は7月1日から3日までの3日間、4月に開設したばかりの日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター(三木市)と日本赤十字社兵庫県支部(中央区)を会場に開催。

今回の受講者は全国27の支部・施設の医師、看護師、薬剤師、主事など64名。兵庫県支部からも姫路・神戸赤十字病院の11名が参加。

研修では、災害医療の考え方についての講義から始まり、局地・近隣災害

や広域災害における遠隔地派遣などさまざまな想定

で行われたグループワーク、救護所展開についての机上シミュレーション、通信やトリアージ(治療の優先度判定)の方法についての実習などが行われました。その後、被災現場の救護所での傷病者の救護や後方支援病院への搬送等を想定した総合演習などを行い、災害救護に必要な知識と技術の向上とともに実践的な技術の習得に努めました。救護員が災害現場での活動への理解を深め連携を図ることが迅速な救護活動につながります。今後もこのような研修や訓練に取り組んでまいります。



グループワークの様子



被災地病院の応援で重症患者の治療を行う医師と看護師



赤十字奉仕団

中播磨地区赤十字奉仕団が「いざという時のために」必要な知識と技術を学ぶ

7月15日、市川町文化センターで「中播磨地区赤十字奉仕団研修会」が開催され福崎町、市川町、神河町から約40人の奉仕団員が参加。

今回の研修会では「赤十字に関するミニクイズ」、「AEDを使った心肺蘇生」「三角巾を使った傷の手当て」などの講習を合計2時間にわたり受講していただきました。

受講された奉仕団員の皆さまからは、「いざという時に役立つ知識を学べて良かった」「心肺蘇生法の大切さが大変理解できた」等と大変満足された様子でした。



心肺蘇生とAEDを使った一次救命処置

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています

活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます



口座記号番号：01110-0-1136

口座加入者名：日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。



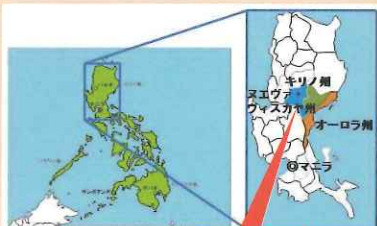
国際活動

おかえりなさい、三嶋看護師

～フィリピン保健医療支援事業～



日本赤十字社はフィリピン赤十字社と協力し、2005年から住民の保健医療サービスへのアクセスを改善するための保健医療支援事業に取り組んでいます。本事業では村内に地域保健ボランティアを育成し、パンフレットなどの視覚教材を用いて住民に疾病の原因や罹患した際の症状、その予防方法を普及する健康管理や保健衛生活動に取り組んでいます。兵庫県から神戸赤十字病院の三嶋千恵看護師が2016年11月から2017年5月までの約6か月間、フィリピンのヌエヴァヴィスカヤ州カヤバ群へ派遣されましたので活動の様子をご報告します。



フィリピン
ヌエヴァヴィスカヤ州

活動の拠点となったヌエヴァヴィスカヤ州カヤバ郡は標高1,000～2,000mの山間にあり、車両だけではアクセスできない村もまだ多い為、時にはハイキングで5時間かけて訪れることもあり。山に囲まれた穏やかで美しい地域で、水道も電気もガスも普及していない地域もありますが、アウトドアやハイキングの好きな私にはとても楽しい村滞在でした。カヤバ郡の村々には助産師が駐在し簡単な処置や健康相談を受ける小さな保健所はありますが、医師はおらず近隣の病院まで半日以上かかります。そのためここでは住民自身による病気の予防または異常への初期対応、健康の促進をすることが重要になります。私達の事業チームは村々を訪問し、村でよく起こる病気の症状や対処法、予防法を学び身につけられる

よう健康教育を実施したり、子供達が衛生的な習慣を身につけられるよう教育の促進をしたり、救急法講習を行いました。これらの活動の中心になるのは、村の地域保健ボランティアです。主に農業に従事する彼・彼女らが空き時間を利用してこれらの活動に参加し、保健活動をしたり村人に教育・普及をします。普及は、村の集会を利用したり、各世帯を訪問して行われます。同じ村とはいえ2～4時間かかる世帯もあり、生活の合間に活動を行うことは大変ではありますが、「自分たちの村の健康を守りたい」「村の役に立ちたい」という思いで活動されています。私達も彼らの熱意や忍耐力に感銘を受けることが度々ありました。地域保健ボランティアや村の助産師、地域の人々との交流によりその地域の生活を知ること、より良い教育やサポートに繋げることもできました。このように、地域の一員のような気持ちで活動に参加できたことで、充実した日々を送れました。そして帰国した今も、この活動によりカヤバ郡の人々がより健康で幸せな生活を送れることを願っています。



住民へ健康教育の案内をする三嶋看護師



地域ボランティアと三嶋看護師（後列左端）



看護師養成

看護学生が子どもたちと夏まつり

姫路赤十字看護専門学校学生奉仕団の小児病棟訪問班が7月12日に姫路赤十字病院の保育所、14日には小児病棟を訪問しました。保育所の小さな子どもたちや、突然の病気で入院生活を強いられ、お外で元気に遊ぶことのできない子どもたち

に「夏祭り」という、ちょっとしたお楽しみを届けました。縁日のように折り紙で作った金魚すくいや、ゲームコーナーではボーリング、アンパンマンやタコのお面の貼り絵をしました。子どもたちは一生懸命金魚をすくったり、ボーリングをして楽しんでいました。病室から出られない子どもたちのところにも訪問し、一緒にお面の貼り絵をしてプレゼントしました。例年に比べて参加人数が多く、にぎやかな夏祭りになりました。





日赤有功会

兵庫県日赤有功会のご支援に感謝

6月21日、ANAクラウンプラザホテル神戸にて、平成29年度兵庫県日赤有功会総会が開催されました。

日頃から有功会の皆さまには社会貢献や社会奉仕のためにと赤十字活動をご支援いただいています。

総会では昨年度の有功会の活動報告とともに平成29年度の事業計画等が審議され、引き続き青少年育成支援や国際救援事業に対する支援、赤十字活動普及のための支援などに取り組んでいただけたことになりました。また、叙勲や褒章を受けられた方々や米寿を受けられた方々へのお祝いのほか、姫路赤十字病院の高原医療社会事業副部長による「中東地域紛争犠牲者支援」と題した記念講演が行われ、報道等で見聞されている中東地域の実情や難民支援の取り組みに関心を寄せられていました。

平成29年度 兵庫県日赤有功会総会



挨拶をする北村日赤有功会会長



赤十字病院

患者さまに初夏の贈りもの

～神戸赤十字病院にてすずらの寄贈&七夕コンサート～

6月1日、第23回ANA(全日空)すずらん寄贈式を行いました。

すずらの花言葉は「幸福の再来」。阪神・淡路大震災後の1995年より、ANAから患者さまの1日も早いご回復をお祈りし、「しあわせの花 すずらん」が寄贈されています。今年も鉢植えと、すずらの香りがする葉をいただきました。

病室などを訪問し葉をお届けすると、ANAの方々の素敵な笑顔とすずらの香りに入院患者の皆さまはたいへん喜ばれていました。

7月6日には七夕コンサートを行いました。今年は、オカリナ奏者の小林様による演奏です。色々な種類のオカリナとピアノが奏でる美しい音色。親しみのある曲と小林様の楽しいトークに、患者の皆さまも自然と笑みがこぼれます。手拍子でリズムをとったり、口ずさんだり。思い思いに楽しまれていました。

『しあわせの花 すずらん』寄贈式



七夕コンサートでのオカリナ演奏

講習のご案内



救急法基礎・救急員養成講習(3日間受講)

10/7(土)・8日・9日(祝) 9:30～17:30(初日は13:00～)
10/21(土)・22日・28日(土)

科目別講習 講習の一部のテーマを短時間で習得できます。

幼児安全法 災害時の乳幼児支援 10/15 ⑩ 10:00～12:00	幼児安全法 乳幼児の一次救命処置(PBLS) 10/15 ⑩ 13:00～15:00	健康生活支援講習 災害が起こったときにあなたが支援できること ～災害時高齢者生活支援講習～ 10/14 ⑩ 10:00～12:00
--	--	--

◇申込期日は開催日(初日)の1カ月前までです。 ◇会場は日本赤十字社兵庫県支部です。

お問い合わせは、お電話またはホームページで ☎ **078-241-1499** (講習係)